

明日の生活路線について考えよう 上

体の健康を支えるため全身へ血液を運搬する「血管」のように、住民生活と地域社会を支えるため各地域へ人を輸送するのが「生活路線(バス、鉄道等)」です。

ところが、今、市内のほとんどの生活路線では利用者の減少が続き、その維持が難しくなっています。

日常生活に欠かせない市民がいることや、地域においては重要な生活基盤が失われることにもなりかねない大きな問題です。

誰もが住み慣れた地域で安心して生活できるよう、「明日の生活路線」について一人ひとりが関心を持ち考える時期にあるといえます。



種別	輸送人員が減少			対象	仙北市では年間約9千万円の財政負担により運行支援	
	ピーク	H18年度	比率		県・市の補助金等の合計(千円)	うち仙北市の補助金等(千円)
乗合バス	1億791万人 (S44年度)	⇒ 1,500万人 ※秋田県全体	14%	6路線13系統 ※羽後交通路線	30,842	25,472
秋田内陸縦貫鉄道	108万人 (H元年度)	⇒ 50万人	46%	1路線	270,000	53,190
仙北市民バス	6.3万人 (H13年度)	⇒ 4.9万人	78%	3路線6系統	16,029	9,751
JR田沢湖駅・角館駅乗車人員	54.0万人 (H10年度)	⇒ 44.5万人 ※秋田新幹線含む	82%			

事業者の
自助努力
それでも...

事業者自助努力が限界、自治体財政負担が限界になると

～事業者からのメッセージ～

羽後交通(株)

皆様の「生活の足」確保のため、懸命に合理化に取り組んでおります。赤字路線については自治体補助金を受けながら維持に努めておりますが、白岩線については、先般やむを得ず廃止を判断致しました。

弊社も何とか生活路線は維持したいと考えていますが、そのためには、皆様による一層のバス利用が必要になります。路線バスを必要とするお客様がいらっしゃいますし、弊社も更に努力してまいります。

秋田内陸縦貫鉄道(株)

今年度の乗車人員の目標は70万人で、利用者の減少が続く中厳しい状況ではありますが、ぜひ達成しなければなりません。年々観光客のご利用は増えておりますので、今まで以上に沿線やローカル列車の魅力積極的に情報発信し、角館や田沢湖を訪れる観光客の方々を呼び込む努力をしております。

そのためにも土台となる沿線市民の皆様の一層のご乗車をお願い申し上げます。

(株)西宮家(市民バス指定管理者)

私共は、特にお客様とのふれあいを大切にしながら安全運行に努めております。主に通学、通院や買物などにご利用いただいておりますが、より親しまれ多くの皆様に安心・快適にご利用いただけるよう、社員一同心がけてまいります。

また、観光客のご利用も多く、旅の思い出づくりのお役に立てるよう乗ることが楽しさにつながる工夫にも取り組んでまいります。バスを維持するためにも皆様のご乗車を心よりお待ちしております。

いま できることから

「毎月第4金曜日はノーマイカーデー」運動実施中!
公共交通の活性化のためにもみんなで参加しよう!

皆様のご意見をお寄せください。
総務部企画政策課 電話43-1112 FAX:43-1300
メール:kikaku@city.semboku.akita.jp



廃止

羽後交通白岩線が廃止
(平成19年9月末日)
※秋田内陸線の存廃問題や
その他の路線も厳しい状況。

再編

「明日の生活交通」を考えよう。
みんなで知恵を出し合い創り育てることが必要です。
※羽後交通白岩線の廃止代替として、10月1日から
「デマンド型(予約制)乗合タクシー」を試験運行します。詳細は次号でお伝えします。

